

〔平成 18 年度設置〕

琉球大学大学院人文社会科学研究科
比較地域文化専攻（博士課程）

設置に係る年次計画履行状況報告書

国立大学法人琉球大学
平成 18 年 5 月 1 日現在

作成担当者

担当部局（課）名 総務部企画課

職名・氏名 企画係長・新田^{にったさなえ}早苗

電話番号 098 - 895 - 8024

（夜間） 098 - 895 - 8024

F A X 098 - 895 - 8013

目 次

1 調査対象大学院等の概要等	1
2 授業科目の概要	2
3 施設・読部の整備状況,経費	4
4 既設大学等の状況	5
5 研究科・専攻・課程別教員組織の状況	7
6 留意事項に対する履行状況等	13
7 その他全般的事項	14
別紙 A 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」・・	15

大学院等設置に係る年次計画履行状況報告書

1 調査対象大学院等の概要等

区 分	内 容							備 考	
(1) 設 置 者	国立大学法人 琉球大学								
(2) 大学院の名称	琉球大学大学院人文社会科学研究科比較地域文化専攻(博士課程)								
(3) 大学本部の位置	沖縄県中頭郡西原町字千原1番地								
(4) 管理運営組織		認 可 時		変 更 状 況					
	職 名	(フリガナ) 氏 名 (現職就任年月)		(フリガナ) 氏 名 (現職就任年月)					
	学 長	(もりた もうしん) 森 田 孟 進 (平成11年6月1日)							
	研究科長	(なかち ひろし) 仲 地 博 (平成16年7月1日)							
(5) 調査対象研究科等の名称, 定員, 入学状況等									
調 査 対 象 研 究 科 等 の 名 称 (学 位)	認 可 時 の 計 画			入 学 状 況 等					
	修業 年限	入 学 定 員	収 容 定 員	区 分	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平 均 入 学 定 員 超 過 率	
人文社会科学研究科 Graduate School of Humanities and Social Sciences 比較地域文化専攻(博士後期課程) Comparative Culture and Area Studies 博士(学術)	3 年	4 人	12 人	A 入学定員	4 人			1.50 倍	
				受験者数	15 (3)				
				合格者数	6 (1)				
				B 入学者数	6 (1)				
				入学定員 超過率 B/A	1.50				
				収容定員	12				
				在学者数	1年次 [2] 6 計 6 [2]	1年次 [] 2年次 [] 計 []	1年次 [] 2年次 [] 3年次 [] 計 []		
基礎となる学部等 法学部総合社会システム学科 法学部人間科学科 法学部国際言語文化学科 法学部観光科学科									

2 授業科目の概要

< 人文社会科学部研究科比較地域文化専攻（博士後期課程） >

(1) 授業科目表

授業科目の名称	配当年次	単位数又は時間数			専任教員配置				備考
		必修	選択	自由	教授	助教授	講師	助手	
人文社会科学部研究科 比較地域文化専攻									
比較地域文化総合演習 (歴史)	1	2							< 履修方法及び修了要件 > 本博士課程に3年以上在学し、 必修科目16単位 選択科目8単位以上 合計24単位以上を修得し、かつ、 必要な研究指導を受けた上で、学 位論文の審査および最終試験に合 格すること。
比較地域文化総合演習 (文学・言語)	1	2							
比較地域文化総合演習 (考古学・人類学)	2	2							
比較地域文化総合演習 (社会・政治)	2	2							
比較地域文化特別研究	1	2							
比較地域文化特別研究	2	2							
比較地域文化特別研究	2	2							
比較地域文化特別研究	3	2							
琉球史学特論	1・2		2		1				
琉球史学演習	1・2		2						
琉球近世史学特論	1・2		2						
琉球近世史学演習	1・2		2						
琉球考古学特論	1・2		2		1				
琉球考古学演習	1・2		2						
琉球中国関係史特論	1・2		2		1				
琉球中国関係史演習	1・2		2						
琉球日本精神文化史特論	1・2		2		1				
琉球日本精神文化史演習	1・2		2						
異民族支配論特論	1・2		2			1			
異民族支配論演習	1・2		2						
比較文化特論	1・2		2		1				
比較文化演習	1・2		2						
琉球民俗学特論	1・2		2		1				
琉球民俗学演習	1・2		2						
東アジア民俗学特論	1・2		2						
東アジア民俗学演習	1・2		2						
東アジア文学特論	1・2		2		1				
東アジア文学演習	1・2		2						
琉球語学特論	1・2		2		1				
琉球語学演習	1・2		2						
言語政策特論	1・2		2		1				
言語政策演習	1・2		2						
沖縄文学特論	1・2		2		1				
沖縄文学演習	1・2		2						
環境文学特論	1・2		2		1				
環境文学演習	1・2		2						
アジア社会学特論	1・2		2		1				
アジア社会学演習	1・2		2						
平和学特論	1・2		2		1				
平和学演習	1・2		2						
国際関係論特論	1・2		2		1				
国際関係論演習	1・2		2						
島嶼産業政策特論	1・2		2		1				
島嶼産業政策演習	1・2		2						
比較死生学特論	1・2		2		1				
比較死生学演習	1・2		2						
琉球文学芸能論	1・2		2						
琉球・沖縄文化要論	1		2						
アジア文化構造要論	1		2						
比較文化構造要論	1		2						
環太平洋移民社会文化論	1・2								
近代沖縄とアジア論	1・2								
比較アジア民族文化論	1・2								

(2) 授業科目数

認可時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
8	45	0	53	[]	[]	[]	[]	

(3) 未開講科目 該当なし

番号	授業科目名	単位数	配当年次	必修・選択	未開講の理由，代替措置の有無
1					
2					
3					

(4) 廃止科目 該当なし

番号	授業科目名	単位数	配当年次	必修・選択	廃止の理由，代替措置の有無
1					
2					
3					

(5) 授業科目を未開講，廃止としたことに係る大学の所見

該当なし

3 施設・設備の整備状況，経費

区 分		内 容				備 考		
(1) 校 地 等	専 用	共 用	共用する他の学 校等の専用等	計	貸与者 ・ 沖縄県 ・ 沖縄森林管理署 借用期間 (1年更新) H18.4.1 ~ H19.3.31 H17.4.1 ~ H18.3.31			
	8,422,818 (6,981,452)	0 (0)	0 (0)	8,422,818 (6,981,452)				
(2) 校 舎	専 用	共 用	共用する他の学 校等の専用等	計	大学全体			
	157,117 (157,117)	0 (0)	0 (0)	157,117 (157,117)				
(3) 講 義 室 教 室 等	演 習 室	実 験 実 習 室	情報処理学習施設	語 学 学 習 施 設	大学全体			
	9 6 室	9 7 室	2 8 9 室	1 0 室 (補助職員 3人)				1 0 室 (補助職員 2人)
(4) 専 任 教 員 研 究 室	調査対象研究科等の名称		室 数					
	人文社会科学研究科比較地域文化専攻 (博士後期課程)		1 7 室					
(5) 図 書 ・ 設 備								
調査対象学部 等の名称	図書 [外国書] 冊	学術雑誌 [外国書] 種	視 聴 覚 資 料 点	機 械 ・ 器 具 点	標 本 点			
	577,278 [175,110] (577,278 [175,110])	12,303 [4,210] (12,303 [4,210])	15,797 (15,797)	197 (197)	0 (0)			
計	577,278 [175,110] (577,278 [175,110])	12,303 [4,210] (12,303 [4,210])	15,797 (15,797)	197 (197)	0 (0)			
(6) 図 書 館	面 積		閱 覧 座 席 数	収 納 可 能 冊 数		大学全体		
	9 , 9 3 8		8 6 0 席	1 , 0 0 7 , 7 5 0 冊				
(7) 体 育 館	面 積		体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要			大学全体		
	5 , 2 4 5		グラウンド，サッカー場，野球場，プールその他					
(8) 経費の見積り 及び維持 方法の概要	経費の 見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設年度	完成年度	国費による
		教員1人当りの研究費等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	
	共 同 研 究 費 等	千円	千円	設備購入費	千円	千円		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		千円	千円	千円	千円	千円	千円	
学生納付金以外の維持方法の概要								

4 既設大学等の状況

大学の名称	琉球大学							所在地	備考
	既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	定員超過率	学位又は称号		
人文社会科学研究所 (博士後期課程) 比較地域文化専攻	3	4	-	12	1.50	博士(学術)	平成18年度	沖縄県中頭郡西原町 字千原1番地	
人文社会科学研究所 (博士前期課程) 総合社会システム専攻	2	21	-	42	0.95	修士(法学, 政治学, 経済学, 経営学)	平成13年度	沖縄県中頭郡西原町 字千原1番地	
人間科学専攻	2	17	-	34	0.88	修士(社会学, 教育学, 心理学, 哲学, 経済学, 地 理学, 学術)	平成13年度		
国際言語文化専攻	2	13	-	26	0.84	修士(文学, 歴史学, 言語科学)	平成13年度		
教育学研究所 (修士課程)								沖縄県中頭郡西原町 字上原207番地	
学校教育専攻	2	5	-	10	1.80	修士(教育学)	平成2年度		
障害児教育専攻	2	3	-	6	0.66	修士(教育学)	平成18年度		
臨床心理学専攻	2	3	-	6	5.33	修士(教育学)	平成18年度		
教科教育専攻	2	24	-	48	1.00	修士(教育学)	平成2年度		
医学研究所 (博士課程)								沖縄県中頭郡西原町 字上原207番地	
医科学専攻	4	25	-	100	0.92	博士(医学)	平成15年度		
感染制御医科学専攻	4	13	-	52	0.61	博士(医学)	平成15年度		
医科学専攻(修士課程)	2	15	-	30	0.60	修士(医科学)	平成16年度		
保健学研究所 (修士課程)								沖縄県中頭郡西原町 字千原1番地	
保健学専攻	2	10	-	20	1.20	修士(保健学)	昭和61年度		
理工学研究所 (博士後期課程)								沖縄県中頭郡西原町 字千原1番地	
生産エネルギー工学専攻	3	4	-	12	1.00	博士(工学)	平成9年度		
総合知能工学専攻	3	3	-	9	2.33	博士(工学)	平成9年度		
海洋環境学専攻	3	5	-	15	1.80	博士(理学, 学術)	平成10年度		
理工学研究所 (博士前期課程)								沖縄県中頭郡西原町 字千原1番地	
機械システム工学専攻	2	22	-	44	0.86	修士(工学)	平成9年度		
環境建設工学専攻	2	18	-	36	1.16	修士(工学)	平成9年度		
電気電子工学専攻	2	18	-	36	1.16	修士(工学)	平成9年度		
情報工学専攻	2	12	-	24	1.50	修士(工学)	平成9年度		
数理学専攻	2	12	-	24	0.75	修士(理学)	平成10年度		
物質地球科学専攻	2	20	-	40	0.85	修士(理学)	平成10年度		
海洋自然科学専攻	2	26	-	52	1.26	修士(理学)	平成10年度		
農学研究所 (修士課程)								沖縄県中頭郡西原町 字千原1番地	
生物生産学専攻	2	16	-	32	1.00	修士(農学)	昭和52年度		
生産環境学専攻	2	12	-	24	1.00	修士(農学)	昭和52年度		
生物資源科学専攻	2	12	-	24	0.91	修士(農学)	昭和52年度		
法務研究所 (専門職学位課程)								沖縄県中頭郡西原町 字千原1番地	
法務専攻	3	30	-	90	1.00	法務博士 (専門職)	平成16年度		

大学の名称	琉球大学							備考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	定員 超過率	学位又 は称号	開設 年度	所在地
法文学部	年	人	年次 人	人	倍		年	
総合社会システム学科 (昼間主コース)	4	215	12	884	1.03	学士(法学, 経済学, 経営学, 政策科学・国際関 係論, 総合社会シ ステム学)	平成9年度	沖縄県中頭郡 西原町字千原1番地
総合社会システム学科 (夜間主コース)	4	50	8	216	1.06	学士(法学, 経済学, 経営学, 政策科学・国際関 係論, 総合社会シ ステム学)	平成9年度	
観光科学科	4	40	-	160	1.03	学士(経営学)	平成17年度	
人間科学科	4	95	3	386	1.04	学士(人文社会)	平成9年度	
国際言語文化学科 (昼間主コース)	4	80	3	326	1.06	学士(人文学)	平成9年度	
国際言語文化学科 (夜間主コース)	4	30	4	128	1.01	学士(人文学)	平成9年度	
教育学部								沖縄県中頭郡
学校教育教員養成課程	4	100	-	400	1.03	学士(教育学)	平成11年度	西原町字千原1番地
生涯教育課程	4	90	-	360	1.02	学士(教育学)	平成11年度	
理学部								沖縄県中頭郡
数理科学科	4	40	-	160	1.02	学士(理学)	平成8年度	西原町字千原1番地
物質地球科学科	4	65	-	260	1.04	学士(理学)	平成8年度	
海洋自然科学科	4	95	-	380	1.03	学士(理学)	平成8年度	
医学部								沖縄県中頭郡
医学科	6	95	5	590	1.00	学士(医学)	昭和54年度	西原町字上原207番地
保健学科	4	60	-	240	1.02	学士(保健学)	昭和56年度	
工学部								沖縄県中頭郡
機械システム工学科 (昼間主コース)	4	90	3	366	1.02	学士(工学)	平成5年度	西原町字千原1番地
機械システム工学科 (夜間主コース)	4	20	-	80	1.21	学士(工学)	平成5年度	
環境建設工学科	4	90	4	368	1.04	学士(工学)	平成5年度	
電気電子工学科 (昼間主コース)	4	80	3	326	1.04	学士(工学)	平成5年度	
電気電子工学科 (夜間主コース)	4	10	-	40	1.27	学士(工学)	平成5年度	
情報工学科	4	60	-	240	1.06	学士(工学)	平成5年度	
農学部								沖縄県中頭郡
生物生産学科	4	55	-	220	1.04	学士(農学)	平成3年度	西原町字千原1番地
生産環境学科	4	40	-	160	1.11	学士(農学)	平成3年度	
生物資源科学科	4	35	-	140	1.07	学士(農学)	平成3年度	

6 留意事項に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項	履 行 状 況	未履行事項についての実施計画
認 可 時 (平成 17 年 12 月 5 日)	特になし		

7 その他全般的事項

< 人文社会科学部比較地域文化専攻 >

(1) 設置計画変更事項 等

認 可 時 の 計 画	変 更 内 容 ・ 状 況 ， 今 後 の 見 通 し な ど
<p>修了要件単位数 24 単位以上 必修科目 16 単位，選択科目 8 単位以上 博士課程に 3 年以上在学し，修了要件単位数以上を修得し，かつ，必要な研究指導を受けた上で，学位論文の審査および最終試験に合格すること。</p> <p>情報の提供 ・琉球大学公式ホームページ内に人文社会科学部比較地域文化専攻のホームページを開設し，公表する。 このホームページのコンテンツは次のとおり予定している。 1) 全ての開講科目のシラバス 2) 担当者のプロフィール 3) 人文社会科学部比較地域文化専攻の受験者数や合格者数 4) 在学生に関する統計 5) 進路 6) 募集要項 ・自己点検評価は報告書としてまとめ，刊行物として公開し，全国の大学院へ送付する。 ・年 1 回オープンキャンパスを実施し，受験生に授業を参観・体験する機会を設ける。</p> <p>教員の資質の維持向上の方策 ・法学教育研究会及び琉球アジア社会文化研究会における FD 活動と，学生による授業評価の利用によって，教員の資質の維持向上や授業改善などに努める。</p>	<p>修了要件単位数 特に変更なし</p> <p>情報の提供 ・ホームページ整備中であり，本年中には掲載できる見通しとなっている。 ・自己点検評価については，開設 2 年目（平成 19 年度）以降に学年進行状況をみながら実施する。 ・全学のオープンキャンパス開催時に実施する予定（8 月頃）</p> <p>定例の研究会を毎月 1 回開催し，より一層の充実を図る。</p>

(2) 自己点検・評価等に関する事項

<p>A 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見 (別紙のとおり)</p> <p>B 自己点検・評価報告書 a 公表(予定)時期 平成 21 年 5 月 1 日 公表 b 公表方法 ・自己点検・評価報告書を刊行し，国内の大学院及び希望があった学生に各 1 冊を配布予定。 ・ホームページ上に公開予定。</p> <p>C 認証評価を受ける計画 ・平成 20 年度に評価機関「大学評価・学位授与機構」の評価を受けるべく，学内で検討中</p>

(2)自己点検・評価等に関する事項

A 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

比較地域文化専攻は、世界の中の琉球・沖縄という観点から、「琉球・沖縄」、「アジア」、「比較」をキーワードにして、琉球と世界各地とをつなぐ具体的な課題について多角的な視点から解明していく能力を有する高度専門職業人と、大学や研究機関で活躍できる専門家の養成を目的としている。

本専攻の修了者のイメージは、高度専門職業人、研究者、外国人研究者、社会人専門家の高度化、総合的能力を備えた人材となっている。

応募者、合格者の状況を見ると、上記の設置の趣旨と目的、設置の必要性に記載した内容を裏付けるものとなっており、今後は修了者のイメージに描いた計画の実現に向けた指導体制の確認と、相互検証を怠る事なく進めることが肝要である。

一期生の応募状況

一般選抜（修士課程・博士前期課程からの進学者）	7人
社会人（ペルー籍1を含む）	4人
外国人（米国1、中国2、タイ1）	4人
合計	15人

合格者の内訳

一般選抜	1人
社会人	3人
外国人（中国1、タイ1）	2人
合計	6人

「設置の背景」に記載してある「海外からの注目度」、「国内からの注目度」は、応募者・合格者の内容によって確認できる。また、来年度の入試に向けての問い合わせも、外国を含めてすでに数件寄せられており、本専攻に寄せる内外の期待が大きいことがわかる。特に、今年は沖縄県主催で「世界のウチナーンチュ大会」があり、この全県的イベントとの関係で、ハワイ大学から学術面のワークショップを本専攻と共同で開催したい旨の要請もきている他、5月にはネバダ大学（アメリカ）スタッフとの教育懇談会を開く予定であるなど、教育と研究の国際化も順調な滑り出しをみせている。

また、本専攻の教育面での特色である複数指導教員制の導入は、「比較地域文化総合演習」の実施体制の具体化、主査と副査（2人）の決定などにより、実施体制が整えられている。